

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ミライクふくやま川口教室		
○保護者評価実施期間	2025年 11月 25日		~ 2025年 12月 20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	49	(回答者数) 41
○従業者評価実施期間	2025年 12月 16日		~ 2025年 12月 20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 27日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	一人ひとりの特性や発達段階を丁寧に把握し、個性を重視した支援を行っている	日ごとに課題内容を変え個別にカリキュラムの作成を行う。一人ひとりの気持ちに寄り添う姿勢を大切にし、安心して過ごせる関係づくりを重視している	一人ひとりの特性や発達段階を、日々の観察や記録を通して丁寧に把握し、声かけや活動内容、関わり方を個別に調整することで、無理のない支援を行っている
2	生活やコミュニケーションに必要なスキルを集団活動を通じて学び、様々な経験をする中で社会性を育てていく	各種イベントを計画的に実施し、体験活動を通じた発達支援の機会を確保している	季節行事や体験活動など各種イベントを開催し、児童が楽しみながら多様な経験・体験を積める機会を大切にしている。体験を通して得られる成功体験や気づきを、日々の成長につなげていく
3	各種研修を計画的に実施し、支援の質の向上を目指している。理解しやすさや取り組みやすさを重視し、支援に直結する教材を意識している	研修後に振り返りや共有の時間を設け、学びを職員間で共有している。既製品に頼らない教材づくりを行っている	教材づくりを通して、個々の理解を深める機会となっている。職員同士で意見交換を行い、支援方法の工夫や質の向上につなげている

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	児童一人ひとりへの関わりの時間にばらつきが生じる場面がある	情緒が不安定な児童や支援ニーズの高い児童への対応が優先され、関わりの時間に偏りが生じやすい	職員間で役割分担を行い、全体活動と個別支援のバランスを調整する
2	個々の興味関心に十分に対応しきれない場合がある	活動の進行や安全確保を優先する場面で、個別の希望に十分対応できないことがある	児童の声や反応を活動内容に反映する工夫
3	会議やケース検討の機会が限られており、支援方針のすり合わせが後追いになることがある	日々の業務対応が中心となる中で、定期的なケース検討の時間確保が難しい場合があり、あわせて関係機関との日程調整に工夫を要するため	短時間でも定期的にケース検討の場を設けるとともに、記録や共有ツールを活用し、支援方針を事前に確認・共有できる体制を整える

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		ミライクふくやま川口教室		公表日		2026年 2月 6日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		基準を守り、様々な活動に対応できるように空間を作ってる	安心して活動できる環境づくりを継続する	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		利用定員に対し必要な職員配置を行っている	利用が集中する時間帯や、支援の必要度が高いこどもが複数いる場合には、十分な対応が難しい場面がある	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		活動ごとにスペースを分け、視覚的にわかりやすい環境構成を心がけている	今後も特性や状況に応じて環境整備の工夫と改善を継続していく	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		休息空間や、水回り等、区域を分け清潔に過ごせるように配慮する	整理整頓のルールを職員間で再確認し、こどもと一緒に環境を整える取り組みを進めていく	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		個々の活動が出来るスペースを確保し、必要に応じて、個室の活用もできるようにしている	静かに過ごしたい場合、完全な遮音の難しさがある	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		定期的にミーティングを開催し、見直しと改善に努める	今後も職員全体がより参画しやすい仕組みづくりに努めていく	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		年に1回、保護者向け評価表（アンケート）を実施し、意向や満足度を把握する機会を設けている	今後もより多くの声を反映できるよう取り組みを進めていく	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		定期的にミーティングを開催、意見の出しやすい雰囲気づくりを心がけている	今後も意見を反映しやすい体制づくりに努めていく	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○		第三者評価を定期的実施する体制が十分に整っていない	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		様々な研修に参加し、専門的な知識や正しい情報を学ぶ機会を設けています	今後も計画的な研修実施と内容の充実に取り組んでいく	
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		こども本人の気持ちや思いを尊重しながら、保護者のニーズも踏まえた支援目標を設定している	知らない方には、ホームページに公表していることを伝える	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		本人の思いを尊厳しながら、面談や相談支援事業所との情報共有を基に計画を立てている	アセスメントを基に、こどもと保護者のニーズを踏まえた放課後等デイサービス計画の作成に努めていく	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		職員間で役割や支援方針を共有し、計画に基づいた一貫性のある支援に努めている	計画内容の意図や目標について、職員全体への周知をより丁寧に行っていく	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		児童発達支援管理責任者を中心に、支援の方向性にずれが生じないよう連携を図っている	定期的な振り返りを行い、計画と支援の整合性を高めていく	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		アセスメントシートの活用や、面談やモニタリングを通して、生活面・行動面の変化を継続的に確認している	日々の観察結果を、十分にアセスメントとして整理しきれない場合がある	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		放課後等デイサービスガイドラインを踏まえ、「本人支援」「家族支援」「移行支援」「地域支援・地域連携」の視点を意識して計画を作成している	支援内容が「本人支援」に偏り、「家族支援」「移行支援」「地域支援・地域連携」の視点が十分でない場合がある	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		活動プログラムについて、職員間で意見交換を行いながら立案している	今後も参画しやすい体制づくりを進めていく	

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		季節行事や外出活動を取り入れ、活動に変化を持たせている	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているが、今後も内容の見直しや改善を継続していく
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		一人ひとりの状況に合わせて、内容を選択して活動できるようにしている	今後も柔軟な対応と計画の見直しを継続していく
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		日々のミーティングにて、情報共有を行い、業務を分担して運営をおこなっている	今後も情報共有の充実を図っていく
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		提供支援内容の振り返りと、改善についてその都度意見交換を行い、支援に反映しております。	業務終了時間の都合により、十分な振り返りの時間を確保できない場合がある
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		個々の状況や、支援内容の記録をもとに、次の支援内容の検討を行っている	記録をより効果的に活用し、支援の検証と改善に結び付けていく
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		良かった点や課題、気づいた点を共有し、次の支援に活かせるよう努めている	今後も保護者との連携・子どもへの寄り添いを十分に行い、一人ひとりに適した支援を行い続けていく
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○		日々の活動や行事、個別支援の中で、こどもの発達段階や特性に応じて活動内容を柔軟に構成している	活動計画の段階で4つの基本活動の視点をより明確にし、バランスの取れた支援となるよう工夫していく
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		複数の活動内容を提案し、自身の意思で活動内容を決定できるように準備をしている	今後は日常の支援の中で、より多くの場面で自己選択・自己決定の機会を意識的に設定していく
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		サービス担当者会議や関係機関との会議には、児童発達管理責任者が参画し、情報共有を行っている	今後は会議への参加体制を整理し、より継続的にこどもの状況を把握した職員が参画できるよう調整していく
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		相談支援事業所や学校等と連携を取り、支援出来る体制を作っている	連携をさらに深め、こどもの状況に応じた支援の充実を図る
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		送迎・その日の子どもの様子など、連携が必要なことを、学校・学童と連携を行っている	学校と行事予定や下校時刻等の情報共有を行い、送迎時やトラブル発生時にも適切な連絡調整を行っていく
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		必要に応じて、相談支援事業所等を介して情報の共有をしている	保護者からの聞き取りが多いため、就学前に利用していた保育所等と情報共有の機会を増やしていく
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○		本人や保護者の不安軽減を意識し、必要に応じて相談対応や引き継ぎを行っている	卒業後を見据えた支援や連携を、より早い段階から意識していく必要がある
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○		より多くの助言、研修を受ける機会を設けスキル向上を図っている	必要に応じて助言や研修を受け、支援の質の向上に努めていく
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○			定期的・継続的な交流の機会を設けるまでには至っていない
	33	(自立支援) 協議会等へ積極的に参加しているか。	○		出席可能な限り参加している	参加内容を事業所内で共有する仕組みをさらに整えていく
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		送迎時や連絡帳、電話等を活用し、日頃からこどもの様子や活動内容を保護者に伝えている	保護者と顔を合わせる機会が少ない家庭もあるため、手段の工夫が必要（電話・連絡ノート・訪問など）
35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		保護者との面談や日常のやり取りを通して、家庭での関わり方や声かけの工夫等について助言や情報提供を行っている	家族が参加しやすい研修や支援プログラムの実施・紹介を検討していく	
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約時に説明を行い、内容に変更があった場合は、文書配布や口頭説明を行い、周知に努めている	説明内容が一度きりになり、時間の経過とともに理解が薄れる場合がある
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		面談を定期的に行い、家庭や児童の意向を確認する機会を設けている	本人の意思をより多面的に把握できるよう改善していく
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		計画書の内容・目標立てた理由を説明し、同意をもらっている	保護者の就労状況や家庭の事情等により、十分な説明時間を確保できない場合がある

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		電話や対面等、ニーズに合わせて相談できる窓口を設けて、支援を行っている	内容に応じて関係機関と連携し、保護者への支援が適切に行われるよう配慮していく
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		○	祝日のイベント活動で、保護者・きょうだいの参加機会を設けている	定期的な保護者会や父母の会の開催には至っていない
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		苦情受付窓口や対応手順を定め、運営規程等により保護者へ周知している	今後は周知方法を見直し、より分かりやすい案内を行っていく
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		SNSや事業所のホームページ等を活用し、活動概要や支援内容、連絡体制について情報発信を行っている	情報発信は行っているが十分に浸透していないため、伝え方の工夫を進めていく
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		職員間でも共通の認識を持ち、取り扱いに十分注意している	書類管理（施錠・保管場所・持ち出し禁止等）について、定期確認を行う
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		利用児童に応じたサービス提供を常時行っている	保護者との情報共有が、送迎時など限られた時間に集中しがち
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○		地域住民を招待する行事の実施ができていない
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		全てのマニュアルを策定し、非常時の対応が取れる様に訓練も定期的実施している	今後も連絡ノート・HPなどで発信していく
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		BCPを策定し、訓練や研修等も適宜行っている	訓練後の振り返りや見直し、形式的になりやすい
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		定期的に服用している薬について、アセスメントを行い確認をしている	発作対応や服薬介助について、実践的な研修機会が少ない
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		医療機関提供の指示書に基づき、個々に対応をしている	定期的なモニタリング時に、指示書内容の継続確認・更新の声かけを行う
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		救急・応急対応、災害時対応、感染症対策等の安全管理に関する研修や訓練を実施している	実際の支援場面を想定した事例検討やロールプレイ型研修を取り入れる
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		避難訓練実施報告や、避難経路、場所等の周知を定期的に行っている	訓練内容や結果について、具体的な情報共有が不足しがち
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		情報を記録として残し、再発防止につとめている	事例共有時に、原因・背景・再発防止策を整理して検討する
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		定期的に研修を行い、虐待防止に対する意識を高めている	研修内容を日常支援に活かすための実践的な検討や共有が不足している
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		現在までに身体拘束を行ったことはないが、身体拘束適正化のための指針を作成し、職員研修も行っている	具体的な事例を用いた研修やケース検討を行い、理解の統一を図る	

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 ミライクふくやま川口教室

公表日 2026年 2月 6日

利用児童数

64

回収数

41

	チェック項目	回答				ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	39	2			清潔で整った過ごしやすい空間だが、利用人数や年齢層によっては手狭に感じることもある。	整理整頓に努め空間を確保していますが、活動内容や人数に応じた柔軟なレイアウト構成を検討いたします。
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	39			2	職員の数は多いと感じている。手厚くサポートしてもらっています。	手厚い支援との評価を励みに、今後も職員間の連携を深め、一人ひとりに寄り添った質の高い支援に努めます。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	37	3		1	空間づくりができており、子どもにとっても区別しやすい環境が整えられているとおも。	環境構成への評価を嬉しく思います。今後も視覚情報の活用等、特性に合わせた構造化をより一層推進します。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	40	1			清潔で整理された過ごしやすい空間だが、活動内容に応じたゾーニングや広さの確保に課題がある。	清掃の徹底を継続しつつ、パーテーションの活用等で活動別のゾーニングを強化し、空間確保に努めます。
適切 な 支 援 の 提 供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	40			1	職員が共通意識を持ち、子どもの興味や視覚情報を活用した工夫ある支援を丁寧に行っている。	今後も専門性を磨き、特性に寄り添う工夫を継続します。
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	40			1	公表されている内容と相違はなく、子どもも長期にわたり支援を受ける事が出来ている	今後も継続的な支援の質の維持に努めてまいります
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	41				計画書も分かりやすく子どもの特性をよく聞いて理解して作ってくださっている。	今後も丁寧な聞き取りを行い、お子様の変化やニーズに応じた計画を作成します。
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	37			4	子どもの事を理解し、特性にあった支援方法が明記されており、目標に向けた具体的な支援の提案もしてもらっている。	今後もガイドラインに基づく適切な設定を意識し、本人と家族に寄り添う具体的な支援を提案します。
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	39	1		1	子どもの状態にもよるので計画通りにいかないケースがあっても当然だと思う。	計画を軸としつつ、日々の体調や変化に合わせた最適な支援を行います。
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	38	1		2	長期休みを中心にたくさん活動の提案があり、イベントにも参加しやすいように工夫してもらっている	長期休暇の企画に加え、日常的にも興味関心の幅を広げられるよう、多様で変化のあるプログラムを提供します。
	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	15	9	6	11	交流が出来なくて放課後デイに通っている為、無理に必要だとは感じない。今のままでよい。	現状の支援環境を維持しつつ、お子様の心理的負担に配慮し、希望や状況に応じた慎重な検討を継続します。
保 護 者 へ の 説 明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	40	1			入所時に細かく説明をしてもらった。	契約時のみならず、制度変更や更新の際にも分かりやすい説明を徹底し、常に透明性の高い運営に努めます。
	13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	40	1			分かりやすい言葉で伝えてもらえるので説明も聞きやすい。	専門用語を避け、図示や具体例を用いるなど、今後も視覚的・直感的に理解しやすい計画説明を徹底します。
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	25	6		10	家族参加型の活動も提案して下さるが、仕事の都合上参加は難しい。情報の共有はその都度発信がある。	多忙なご家庭に配慮し、参加型行事のほか、書面やSNS等を活用した柔軟な情報提供と支援を継続します。
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	41				送迎時に丁寧に子どもの様子等を伝えてくれるので相談しやすい。	送迎時の対話を大切にしつつ、連絡帳等も併用して多角的な情報共有を行い、共通理解の深化に努めます。
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	37	3		1	面談や送迎時に相談しやすく、話を丁寧に聞いて情報共有や支援に反映してくれるので安心感がある。	傾聴を重視した相談体制を維持し、得られた情報を職員間で即座に共有することで、支援の質の向上に繋がります。
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	41				職員のかたが子どものことや親の事も気に掛けながら支援の事を伝えてくれる為色々は話ができて満足している。	親子双方の心情に寄り添う姿勢を堅持し、信頼関係を深めながら、より一層きめ細やかな対話を継続します。
18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	14	13	4	11	仕事の都合上保護者会等は参加が難しいので必要性を感じない。きょうだい児に配慮してイベントの開催もあり、家族で参加できるものも多いと思う。	保護者会は参加の負担に配慮しつつ、きょうだいや家族で参加できる多様な行事を継続し、支援を広げます。	

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	31	3		7	親がとて悩んでしまった時に、すぐに相談できる体制を整えてくれて外部機関の紹介も提案してくれた。	迅速な相談体制を維持し、必要に応じて外部機関とも円滑に連携できるよう、周知と窓口の明確化を継続します。
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	39	2			LINE等のツールを使い子どもにも保護者にも同じ情報が伝わるようになっていたので助かる。	デジタルツールの活用を継続し、情報の即時性と正確性を担保しながら、円滑な意思疎通をさらに図ります。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	35	2		4	インスタやホームページに活動の様子が上がっているので確認する事ができています。個別にも写真の提示がある。	各種SNSやHPでの発信を継続し、活動の透明性を高めるとともに、個別の丁寧な情報共有も徹底します。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	38	2		1	ネット上でも配慮された配信がされていると思う。	個人情報保護の方針を遵守し、SNS等での画像加工や管理を徹底することで、今後も安全な発信に努めます。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	34	3	1	3	マニュアルは掲示してあったり、LINE等でお知らせしてもらっている。	各種マニュアルの周知を徹底し、今後は訓練の様子も共有することで、より安心感のある運営に努めます。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	34	2		5	子どもから訓練の話は聞いたことがある。ホームページにも掲載されていた。	定期的な訓練を継続し、実施内容をHP等で詳細に発信することで、お子様の安全確保の取り組みを伝えます。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	39	2			外出の際には想定される事案などの説明があり、子どもの状態に合わせて参加の判断が出来る。	外出時のリスク共有を徹底し、お子様の特性に応じた安全計画を提示することで、安心な参加をサポートします。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	35	3		3	事故が発生していないのでわからないが、緊急時の連絡先の確認等は定期的に行われている。	万が一の際は迅速な報告と誠実な説明を徹底します。今後も定期的な連絡先確認を行い、緊急時に備えます。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	41				職員や友だちと過ごせる環境で親子共々、不安なく通所する事が出来ています。	厚い信頼をお寄せいただき感謝します。今後も職員や友だちとの絆を深め、安らげる環境作りを継続します。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	41				活動内容を報告してくれるなど、次回の通所も楽しみに毎回通っています。通所し始めて明るくなった。	お子様の変化を嬉しく思います。興味関心を引き出す活動を企画し、通所の喜びが自信に繋がるよう支えます。
	29	事業所の支援に満足していますか。	41				得意なご事も増え本人の自信に繋がっている様子がわかる。通所を喜んでいるので支援内容に満足しています。	ご満足いただけて光栄です。今後もお子様の長所を伸ばす支援を追求し、成功体験を積み重ねる環境を作ります。